

あとがき・・・著作者の私から…

あるがままの今日、なにげない毎日を楽しさと言う輝きに変える二つの作品。  
♪「あいうえお・かず」「ちいさいパピーちゃん絵本」♪

その作品こそ、子ども達の心の支えになって、絶えず子ども達を励まし、  
勇気づけると、私は♪「あいうえお・かず」「ちいさいパピーちゃん絵本」♪  
のチカラを信じて制作しました。

私は、戦争のさ中、茨城県の小さな村（行方郡潮来町・大生原延方地区、現  
在は行方市）で生まれたのですが、そこで過ごした幼少の日々の実際の体験  
（100%ではありませんが）を、♪「あいうえお・かず」「ちいさいパピーちゃん  
絵本」♪を通して発表させていただきました。

いわば、「あいうえお・かず」「ちいさいパピーちゃん絵本」は、『三つ児  
の魂・百までも』の諺の『三つ児の魂』の一人歩きです。

♪「あいうえお・かず」「ちいさいパピーちゃん絵本」♪を発表できたこと  
は、ひとえに、私の父や母、そして、ふるさとの人々からの恵みでもあります。  
それ以上に、現在の幼児が♪「あいうえお・かず」「ちいさいパピーちゃん絵  
本」♪を、なにげない毎日の生活の中で、ほのぼのと楽しむことで、母語（母  
国語）やほのぼのタッチの絵の美しさを心にやさしく残し、日本人として生き  
る喜びや、祖国への愛を、「いいなあー」と強く感じると思ったからです。

そして、それは、「きっと一番いいものが待っている」「優しい心・幸福・友  
情などの美しい花を咲かせる」と子ども達を励まし、その恵みのおとずれを、  
ほのぼのと享受してくれるにちがいない、そう、願って作品づくりをしてきま  
した。

私は、ささやかな提案ですが、やはり、幼児期における教育は、正しい言葉  
（語句と文章）づかいにつながる遊びこそ、一番大切な『なにげない毎日の、  
子どものしつけ』と考えます。

その『なにげない毎日の、子どものしつけ』が、五十音の50の音感遊びか  
ら文字獲得の音感遊びにつなげる遊び・♪「あいうえお・かず」「ちいさいパ  
ピーちゃん絵本」♪となりました。

♪「あいうえお・かず」「ちいさいパピーちゃん絵本」♪の内容・表現は、『日本の遊び12か月～日本民族の幼な心の響き』としました。

それは、『なにげない毎日の、子どものしつけ』の中で、幼児が大きく成長し、その『美しい母語』を、子ども集団の”よりどころ”として、子ども自身みんなが、結果として”ほのぼの”と共通に意識するようになり、そのことが、現代の子どもの病む状況をも、大きく解決していくと考えたからです。

♪「あいうえお・かず」「ちいさいパピーちゃん絵本」♪を発表するにあたり、たいそう、迂遠（うえん）な言い方ではありましたが、現代の子どもの今日・明日を元気で明るいものにするためには、私たちが、今すぐにでもできる『美しい母語』への回帰以外にないと、私は、未熟さもかえりみず、♪「あいうえお・かず」「ちいさいパピーちゃん絵本」♪を発表したのです。

ところで、私は、おじいちゃんになってしまいました。よく、『おばあちゃんの知恵袋』というお話を聞きます。ということは、ここでは、『おじいちゃんの知恵袋』になるのでしょうか。

あとがきを書くにあたって、私としては、ちょっと背伸びをして、書いてしまいました。いつもとは違うので、ちょっぴり恥ずかしくも感じるのですが、実は、このささやかな♪「あいうえお・かず」「ちいさいパピーちゃん絵本」♪を発表させていただくのも、ひとえに、『なにげない毎日の、子どものしつけ』の中で、かけがえのない母語をほのぼのと大切にしつけることこそ、幼児期における教育という提案であって、決してそのほかの願いによるものではないのです。

今、♪「あいうえお・かず」「ちいさいパピーちゃん絵本」♪は素晴らしい世界に飛び立っていきました。

♪「あいうえお・かず」「ちいさいパピーちゃん絵本」♪のえにし〈縁〉が、少しでも大きくなることを祈りながら…。

ありがとうございました。

五十野惇